

第1回

# 健康のため水を飲もう川柳

## 結果発表

応募総数

9,365句!!

### 第1回健康のため水を飲もう川柳とは？

「水と健康」「水とからだ」「水とスポーツ」「水とお酒」「水道水」にまつわるエピソードを川柳にする「健康のため水を飲もう川柳」。

第1回目となる今回は、学生時代の部活や社会人となってお酒を飲み過ぎた思い出、日本から離れて初めて知った日本の水道水のおいしさなど 9,365 作品が集まりました。

※募集期間：平成 28 年 11 月 1 日(火)～平成 29 年 1 月 31 日(火)

皆々様  
力作川柳  
ありがとうございます

多数の応募の中から、見事「最優秀賞」に輝いた作品、惜しくもグランプリを逃したものの「入選」を果たした作品を発表いたします。

最優秀賞

賞状及び現金 5 万円

多めより  
こまめが大事  
水補給

受賞  
コメント

磯江 智美さん(兵庫県)／会社員

水の大切さは近年いわれていることですし、私も普段の生活の中で意識して、一気に多く飲むよりか、本当にこまめに飲んでいるほうなので、自然と生まれたのかな…と思っています。受賞をきっかけに、更に意識を高め水で健康な生活を送っていきたいです。

入賞

賞状及び図書カード1万円分

Congratulations!

水飲むな  
昔の常識  
非常識

受賞  
コメント

橋本 健吾さん  
(神奈川県) / 学生

私は中学・高校とラグビー部に所属しており、このコンクールの題を目にしたときすぐこの川柳が思いつきました。今はもういらっしやらないかもしれませんが、水分補給に無関心な指導者の方にメッセージを届けたいです。

草野球  
水も上手に  
補給(捕球)して

受賞  
コメント

佐藤 恭子さん  
(神奈川県) / 主婦

今回の「健康のため水を飲もう」というテーマは、ともしれば標語的になってしまい苦勞もしましたが、それも川柳作りの醍醐味と感じております。これからも色々なテーマの川柳を詠んでみたいと思っております。

たかが水  
されど命を  
守る水

受賞  
コメント

山野 大輔さん  
(大阪府) / 会社員

川柳応募をきっかけに、水をこまめに飲むことが健康にとっていかに大切であるかを学びました。「たかが水」と水分補給を怠ったばかりに引き起こしたかもしれない熱中症や脳梗塞、心筋梗塞の事例。そんな不幸を招かないよう「されど命を守る水」という意識を常に持ち続けたいです。

講評



本委員会委員長

日体大総合研究所所長  
東京大学名誉教授

武藤 芳照氏

人のからだの3分の2は水でできている、と言っても過言ではありません。水が不足すれば健康を害し、時には命をも危うくします。子どもから高齢者まで、水を飲むことで健康を保ち命を守ることができる、「自ら健康に 水から健康に」なのです。そうした願いを込めて、初めて川柳募集を行ったところ、予想以上の反響があり、9千句を超える作品が寄せられました。日常生活、スポーツ、仕事、お酒、夫婦愛、水道等にかからめた多くの傑作の中から、磯江智美さんの最優秀作品が選ばれました。

「健康のため水を飲もう」と言うけれど、「いつ飲むの?」「どれだけ飲むの?」という質問がしばしば出されます。正解は、普段から「こまめに水を飲むこと」です。過ぎたるはなお及ばざるが如しで、過剰な水分摂取もからだに良くないこともあります。

本作品は、「多め」と「こまめ」と韻を踏み、リズム感を持たせ、水を得た魚のように言葉が躍動しています。そのメッセージ性の高さと歯切れよさを高く評価しました。